

研究機関：広島大学

研究課題名	当院における移植後胆管狭窄に対する内視鏡治療の有用性
研究責任者名	広島大学病院 消化器・代謝内科 教授 茶山 一彰
研究期間	平成 30 年 5 月 9 日 ～ 平成 30 年 5 月 12 日（解析期間等含む）
対象者	2000 年 1 月 1 日から 2017 年 9 月 30 日までの間に当院消化器・代謝内科にて、胆管胆管吻合による生体肝移植後に胆管狭窄を発症し、内視鏡的治療を試みた症例。
意義・目的	生体肝移植後の胆管狭窄に対して内視鏡的あるいは経皮的なアプローチがあるが、当院消化器・代謝内科にて内視鏡的治療を試みた症例で、内視鏡的アプローチによる胆管狭窄部の通過率・長期間プラスチックステント（plastic stent；PS）留置による狭窄解除率・通常型 PS 群と胆管内埋没型 PS 群の長期成績と合併症について検討することで、その有用性を明らかにすることを目的としました。
方法	本研究は、診療録（カルテ）情報を調査して行います。カルテから使用する内容は性別・年齢・血液検査・画像検査（CT・ERCP）・手術記録等です（個人を特定可能な情報は解析に用いません）。
共同研究機関	ありません。
試料・情報の管理責任者	広島大学病院 消化器・代謝内科 助教 石井 康隆
個人情報の保護について	調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心ください。研究に資料を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいても不利益が生ずることはありません。
問合せ・苦情等の窓口	〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3 Tel：082-257-5192（内線2758） 広島大学病院 消化器・代謝内科 クリニカルスタッフ 平野 哲朗